

平成 25 年 1 月 29 日 C 班会議メモ（文責：東北大須藤）

開催場所：北海道大学東京オフィス

参加者：阿多・関谷（産総研）、山内（新潟大）、小林（大阪大）、石田・古川・須藤（東北大）

各グループから進捗報告をしつつ、C 班のデータベースの方向性について議論を行った。

①阿多グループ報告（報告者：関谷）および議論

- ・ バイオミメティクス推進協議会の設置→3 月 15 日ネイチャーテクノロジー研究会主催のシンポジウムにて長谷山先生より紹介することとする
- ・ ISO/TC266 第 2 回総会（5 月）において WG4 を立ち上げるための書類を準備中→長谷山先生のデータベースを「データベース」ではなく「ナレッジ・インフラ・ストラクチャー」として提案する予定
- ・ 製品認証について海外の先行事例を調査中
- ・ バイオミメティクスの標準化について、ISO に先行して考えておいて、ISO の内容を決める際に提案として発言していけるように準備中

②山内・小林グループ（報告者：山内）および議論

- ・ Bio-TRIZ は、ライフスタイルからテクノロジー抽出するプロセスのいろいろな段階で何度も行き来して検索できるような、使いやすいデータベースにする予定で、長谷山データベースとは別個に考えて構築するが、連携ができる点も探す。
- ・ 解決したい問題（工学的視点）→機能や分野などで分類→解決に使える原理→自然界におけるソリューション（経験的ソリューション例）→形態なども含めた画像（→ここから A 班の長谷山 DB とつなげられれば「気付き」の誘発に）
- ・ ネイチャーテック研究会の「すごい！自然のショールーム」の分類を用いることで、Bio-TRIZ と長谷山データベースをつなぐことはできないか。

③石田グループ（報告者：石田）および議論

- ・ ライフスタイルデザインからテクノロジー抽出までのプロセスにおける問題点
- ・ 新しく作ったテクノロジーについて、本当に心豊かにしてくれるのかどうかの確認作業が必要
- ・ ライフスタイルとテクノロジーのマッチングプロセスにおいて、階層的に出てくる分類（現象、機能、形状、原理）というのは C 班で構築するデータベースの分類として適しているのかどうか。→最終的には「原理」で分類するのではないか。

④その他

- 製品として世の中に出す際のテクノロジーのレギュレートが必要あり。
- 「生物規範工学」を世の中に適切に認めてもらうためのアウトプットをする必要あり。
- 次回：北海道大学にて、3月1日（金）11時から12時